

第1章 自然再生の対象となる区域

第1節 神於山の概要及び自然再生の対象となる区域

1. 神於山の概要

神於山は、岸和田市の中央を流れる春木川の水源であり、標高 296.4m の山である。

市街地から見たときにまず目に飛び込んでくる。その山容は美しく、親しみがあり、農業用の命の水を發する源として古代から『神のおわす山』として、「自然」と「神体山」としての崇拜対象となっていた。

神於山は、花崗岩類を基盤とする 2～3 方向の断層により限られた地塁状の地形であり、表面は強い風化の進行により黄褐色マサ土を形成している。その厚さは 20m から 25 m に達しており、断層付近ではさらに深度に及んでいる。尾根筋は東西に配列し、最高峰や分水嶺は南に偏っている。南側斜面は急峻であるが、北側斜面は比較的緩やかであり、土砂層の谷が侵食され、その谷を基点として山麓のため池へ注ぐ水路が生じており、その流れはため池を経て、さらに下流の水路から河川へと続いている。

また、その周辺は、気候的に雨水が不足し、農作物の主要な生産地一帯は水の浸食が強い大阪層群の上にあることから、灌漑対策として、谷の下方をせき止めて水を貯める方法で谷の出口に多くのため池が人工的につくられ、大小のため池が周辺に点在している。

神於山の植生も、大阪府自然環境保全地域に指定されている「^{おがみじんじや}意賀美神社」の境内に名残があるが、常緑広葉樹林のうっそうと繁った原生林であった。しかし、人里近くの山であったため、先人達が長年薪採り等に利用し、急斜面や乾燥する所はアカマツ・コナラなどの二次林となり、緩い斜面はミカン山・竹林となった。

また、神体山として崇拜されていた神於山は、その周辺とともに宗教的にも庶民の生活と結びつき親しまれてきた。^{えんのぎょうじや}役行者創建と伝えられる神於寺や如法峯、般若峯、布引山、北阪明神、光忍上人の伝承等、更には、雨乞いの神として農民の信仰を集めてきた意賀美神社・山直氏の祖をまつる^{やまだいじんじや}山直神社、6 世紀頃の豪族の墓とされている河合古墓のある東葛城神社など、神於山全山が信仰的な雰囲気包まれている。

意賀美神社雨降りの滝・神於寺の桜と紅葉、ハイキングコース・北阪のミカン狩りなど、多くの市民にレクリエーションの場を提供している。

しかし、現在は自然的社会的環境の変化は激しく、竹の拡大繁茂による植生の悪化、廃棄物の不法投棄、土採り等によりその状況は大変厳しくなりつつある。

2. 自然再生の対象となる区域

神於山は、北縁及び南縁がそれぞれ東西に走る 2 本の国道 170 号で、また、東縁及び西縁は、主要地方道岸和田牛滝山貝塚線と府道岸和田港塔原線によって囲まれており、独立した山塊を形づくっている。

自然再生全体構想では、森林環境が比較的残っている範囲として、東縁及び西縁を市道福田内畑線と府道岸和田港塔原線によって区切った面積約 180ha の範囲を自然再生の対象となる区域とし、その名称を『神於山自然再生区域』とする。この範囲には歴史的文化的に神於山との関係の深い史跡等があり、それらとのつながりは全体構想において考慮していく。



神於山自然再生区域

神於山周辺航空写真

縮尺 1:19,000